

はじめに

埼玉県血液事業は、昭和39年に献血制度が発足して以来、県民の皆様の深い御理解と積極的な御協力に支えられ、これまで順調に進展してまいりました。

令和5年度は、241,491人の方々に献血の御協力をいただき、献血者は、前年度に比べ2,134人増加しました。また、関東甲信越ブロック血液センター管内1都9県で調整することにより、医療機関には、血液製剤を安定的に供給することができました。

しかし、近年、10代から30代の若年層の献血者は減少傾向にあります。少子化で若年層の人口が減少していますが、それよりも高い割合で、この年代の献血者が減少しています。

一方で高齢化も進んでおり、今後は医療・介護の需要が大幅に増加することが見込まれ、それに伴って血液製剤の需要も増加することが予測されています。

今後の血液事業は、若い年代の皆様のご継続的な御協力をいただかなければ成り立っていかないと考えております。

こうした状況から、県では若年層の献血者を確保するため、学生ボランティア、プロスポーツチームやタレントの御協力を得て若者を対象としたイベントやキャンペーン、中学生を対象とした「献血推進ポスターコンクール」、高校生を対象とした「高校生献血カード」、小・中・高等学校等を対象とした「血液に関する出前講座」を開催するなど、若い年代の方々に対し様々な啓発事業を積極的に展開しています。

なかでも、教育委員会をはじめ関係機関と連携して、高等学校における校内献血の推進に力を入れており、高校生献血者数は、令和5年度は東京都に次いで2番目という結果になっております。

今後も若年層献血の推進を重点に、より効果的な広報啓発活動を行うとともに血液製剤の適正使用などを推進し血液事業を進めてまいります。

血液事業の最終目標は、献血によりすべての血液製剤を国内自給し、安心・安全な血液製剤を安定的に医療機関に供給することにあります。

関係各位におかれましては、血液事業の重要性を御理解いただき、今後とも一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年10月

埼玉県保健医療部薬務課長
岡地 哲也